

# 提携米通信

2020年11月号・黒瀬農舎

今年は、過去最高の豊作となりました。



今年は集中豪雨、大型台風襲など日本列島は大変でした。  
でも、当地の作柄は、記録的な豊作となりました。  
また、収穫作業時期は好天続きで無事稲刈りを終えました。

今年の稲刈りは、8月、9月が暑かったため、例年より1週間ほど早く始まり、10月10日過ぎに終わりました。

9月号で紹介しましたが、乗用除草機を製作する時のベース車に使う、中古田植え機をヤフオクで見付け、お盆の暑い盛りには、トラックをレンタルして、600Km離れた富山県・射水市へ引き取りに行きました。

道中、新潟と富山の一部で、真夏の中での稲刈り作業を見て驚くと共に、秋田の稲刈りは寒いのが普通ですから、「暑い時期の稲刈りは、気の毒だな。」と同情しました。

ところが我が秋田の今年の稲刈りは、収穫時期が早まった上に、スタート時期には30℃の真夏日が続き、日によっては36℃という記録更新の猛暑の日までありました。

こんな異常気象でしたから、お米の品質も、収量も思わしくないのではと、生産者の誰もが思っていました。

ところが、稲刈り、乾燥、<sup>もみす</sup>糶摺りと、収穫作業が進むと、生産者仲間のほとんどが「こんな多収は初めてだ！ また品質も良い！ 屑米がほとんど発生しない！」と顔をほころばせているのです。

我が家の糶摺りを終えた一部の田圃の状況も、農薬や化学肥料をたっぷり施した一般栽培の方の田圃に比べれば少ないものの、今までにない高収量・高品質です。

世は、コロナショックで大打撃を受けている業種の方も多い中で、何だか申し訳ない気持ちです。

また、自然に左右される農業は、まさに天の恵みを授かる仕事です。環境に負担をかけない食糧生産をこれからも追求していきたいとあらためて思いました。

## 提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大湯村西1丁目4の7

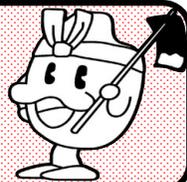
黒瀬 正・友基

TEL:0185-45-3088 FAX:45-2887

E-mail: [akita@kurose.com](mailto:akita@kurose.com) Web:

[提携米 黒瀬農舎](#)

[検索](#)



★定期購入の場合も、変更や休止は次のお米のお届けの5日ほど前までに連絡下さい。  
★お米のご贈答利用も宜しくお願ひします。

★電話は土日祝日も含めて朝8時～夜8時頃まで対応致します（自宅兼事務所）。但し、電話受付の専任スタッフはいないため作業中や外出などで留守番電話での対応となることがあります。ご了承願ひします。また、メールもぜひご利用下さい。なおメールは原則すべて返信していますので、返信メールが届かない際は自動的に迷惑メールとなっている可能性もあるので迷惑メールの確認やメールの設定をご確認下さい。

## 家庭菜園談義から日本農業の問題に

右の写真は、我が家の庭にある菜園です。

20坪程度の小さな菜園ですが、夏場はキュウリ、トマト、ナス、唐辛子各種など食卓の野菜はほぼ供給してくれます。

でも、家庭菜園は、規模が小さくとも、ビックリするほど手間が掛かります。

無農薬で栽培する家庭菜園の人工費コストは莫大で、宅配やデパートなどで買う方が断然経済的です。

しかし、育てる喜びや味は格別です。

ちなみに、20坪の菜園に費やす手間を、お米作りに振り向ければ、我が家の水稲耕作面積を1ヘクタール（3000坪）増やすのと同じ位に値します。

写真は、8月末に播種した大根、その後播種したホウレン草数種、春菊数種、菜の花などですが、ご覧の通り今年は凄く順調な生育です。

その原因は、当地の今年の天候が、8月・9月・10月共に、太陽が多く気温が高い、その上、数日に1度雨が降ってくれたからです。

自然に直接的に左右される農業は、栽培知識を学びおおいに努力しても、その年の天候条件からくる成果を超えることはなかなか出来ません。

今年のお米が高品質・大豊作になったのも、この太陽、気温、雨の3条件が良かったお陰です。

ところで、近代農業と呼ばれている農業経営には、コストを下げた食糧を大量に確保するには、自然環境や自然条件を乗り越える技術の駆使が大切だ。という自然を征服したり、自然に挑戦することを善とする姿勢や思想があります。

この手段に農薬や化学肥料の多投、森林破壊による大規模な農地造成が行われます。

その結果、以前にはどの国の農業・食糧生産も、自然と共生し循環持続されていたものが、近代農業になってからは、農業が、自然破壊の先端を走る産業になってしまいました。

そして、現実の日本の農業生産物は、どれもが供給過剰・生産コストを割り込んだ低価格の常態化で、どの農業生産者の生活も厳しくなっています。

これに対処するためとして、外国人労働者を農業現場に導入したり、農薬化学肥料を多投して収穫量を上げるなどのコスト削減政策が打ち出されていますが、環境を破壊し温暖化に繋がることを始め根本的に的外れだと私は思います。

また、日本のカロリーベースの食糧自給率は37%と最低で、この引上げが大切だ！という主張が多いですが、私はこの主張にも疑問を抱いています。

どの作物も供給過剰価格低迷が現実なんですよ。

これらの問題は、少々長説法になります。今後の号に譲ることにしましょう。



庭の一角に設けた茸伏せ場：春先に、孫たちが椎茸を始め幾つかの茸の種菌を打ち込みました。来年秋からは少し収穫できるかも。

お餅・リンゴ・手作り味噌などご注文ありがとうございました。

お餅などは：お指定のない限り、11月下旬から年末までのお米と一緒にお届けします。

リンゴのフジは：11月下旬～12月上旬（ご指定頂いている方は、その時期）のお届けとなります。

糶、大豆など手作り味噌関係は：1月下旬以降のお届けとなります。

（進物先と自宅のお届け時期を変えるなどのご用命は、何なりと電話やメールでご連絡下さい。）